さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

小中 共通教育課程導入へ

山梨市 9年間で地域課題探究

山梨市内の小中学校・義務教育学校と市教委は、総合的な学習の時間を活用した全校共通のカリキュラムの開発を進めている。市の過去と現在を知り、あるべき市の未来の姿や地域が抱える課題に対して子どもたちが果たせる役割などを義務教育の9年間で系統的に探究する内容。2027年度からの全校導入を目指している。〈山本就己〉

市教委によると、共通カリキュラムの導入により、学校間で探究学習の質に差が生じにくくなる効果を期待する。一つの正解を求めるのではなく、主体的に学ぶ姿勢や課題に対する当事者意識、解決策を思考して実践するといった能力を児童生徒に身に付けてもらうことを目指す。学年ごとに年間10コマ程度の授業時間を確保し、各学年で達成目標を設定する。

4月に発足した、市内の小中・義務教育学校の管理職や教諭らでつくる「カリキュラム開発推進委員会」がカリキュラムの具体的内容や達成目標などを協議。8月下旬の会合には約30人が参加し、「中学2年の夏休みの職場体験で、地元企業が果たしている役割や魅力を調査して動画で紹介してはどうか」「市民アンケートをするなど、地域と関わる機会を確保することが望ましい」といった意見が上がった。

年内に義務教育学校「笛川学園」で、共通カリキュラムを活用したモデル授業の試行を予定している。小中学校の教諭らに授業を公開する日も設ける。成果と課題を検証し、27年度には全校で導入する方針。

推進委の委員長を務める笛川学園の三井保校長は「さまざまな課題を自分事として捉え、何ができるかを考えて実践する力が今の社会で必要とされている。（共通カリキュラムで）探究的な思考の下地をつくり、高校以降の学習に役立ててもらいたい」と話している。



カリキュラムについて検討する教職員　＝山梨南中

峡東
山本　就己
武田　寛明

（2026年10月30日付 山梨日日新聞19面）

問1 山梨市は、何を活用した全校共通のカリキュラムの開発を進めていますか。

問2 この教育から、児童生徒にどのような力を身に付けてもらうことを目指していますか。

問3 カリキュラム開発推進委員会で出された、中学２年生の活動案を1つ答えてください。

問4 あなたなら地域の、どのような課題について探究してみたいですか。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2026 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.